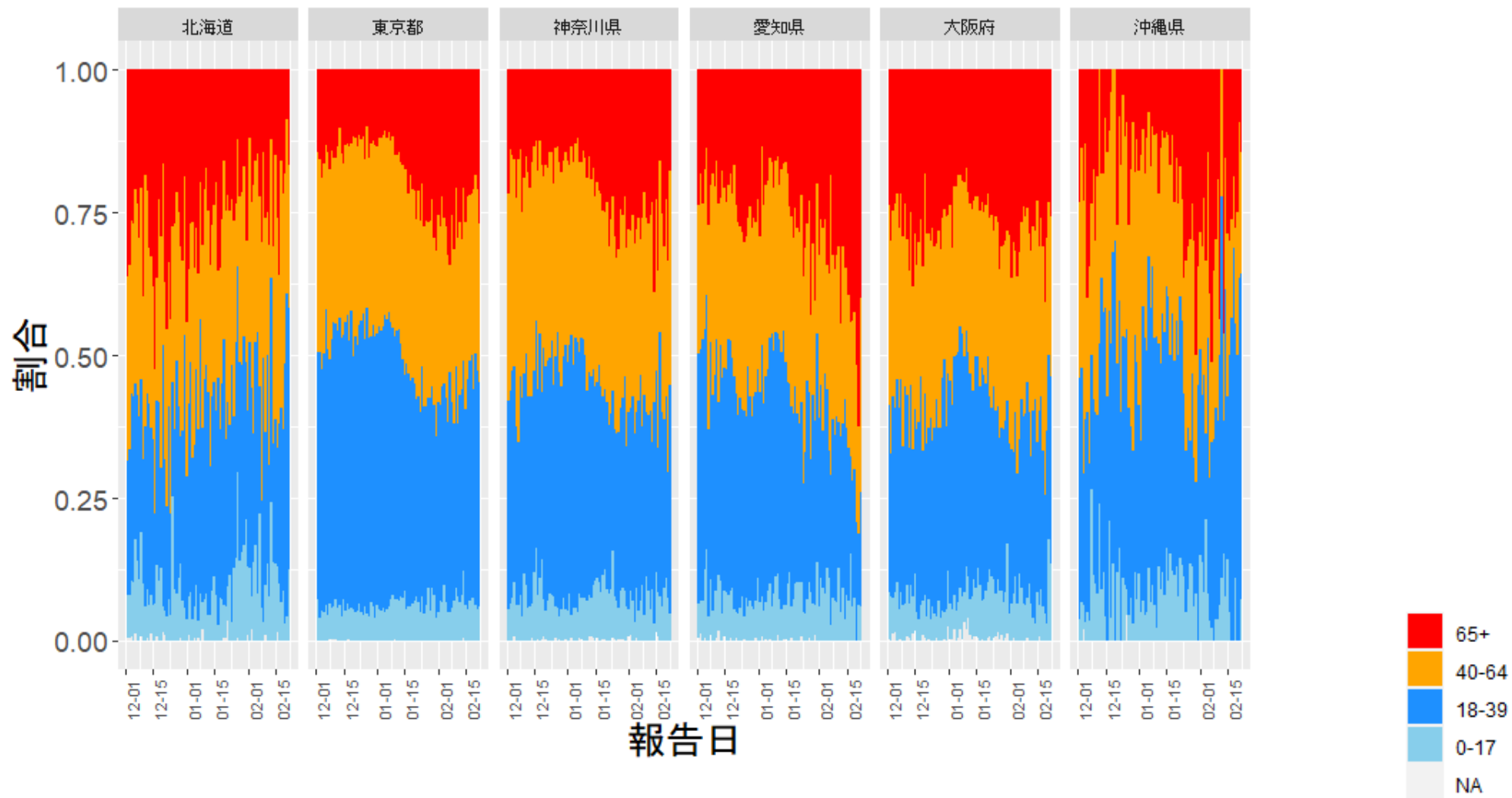
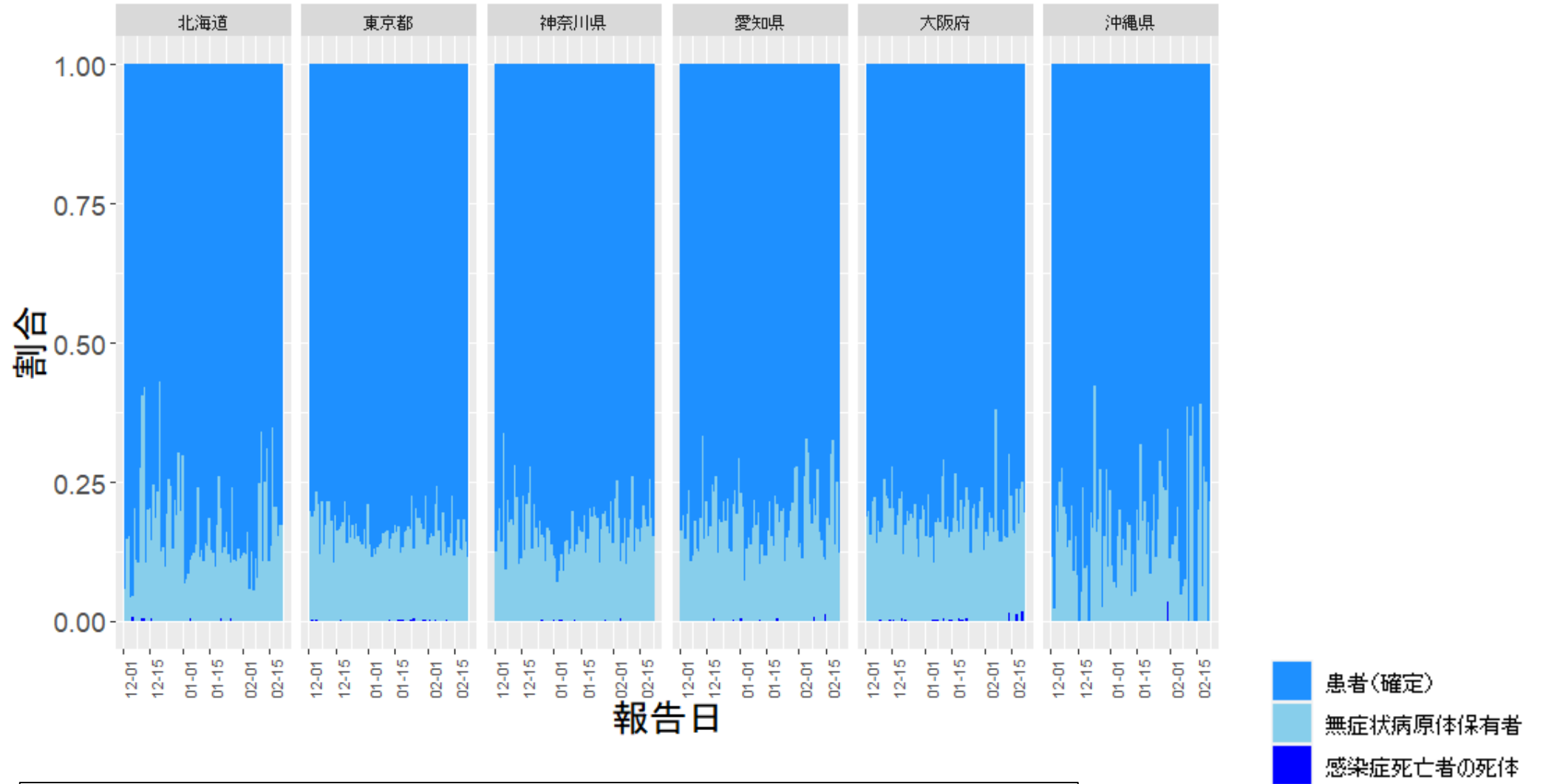


年齢群分布の推移：都道府県、報告日別（2月23日作成）



HER-SYSデータに基づく。

届け出時点の病型分布の推移：都道府県、報告日別（2月23日作成）



HER-SYSデータに基づく。

(注) 感染症死亡者の死体：死後に新型コロナウイルス感染症によるものと判断された者

人口10万人あたりの7日間累積新規症例数の推移：年齢群別

使用データ

HER-SYSと自治体公開情報データ（2月23日時点）

対象地域

- 緊急事態宣言が発出されている埼玉、東京、千葉、神奈川、愛知、岐阜、京都、大阪、兵庫、福岡

解釈時の注意点

- HER-SYSに基づく値は、特に直近1週間については報告遅れのために過小評価となっている可能性があり、その程度は自治体によって差がある（図の灰色部分）
- 自治体公開情報データに基づく年代別の値は、年代を非公表としている症例が多い自治体については過小評価となる
- どちらのデータも完全ではないため、両者を用いた評価が必要である

まとめ

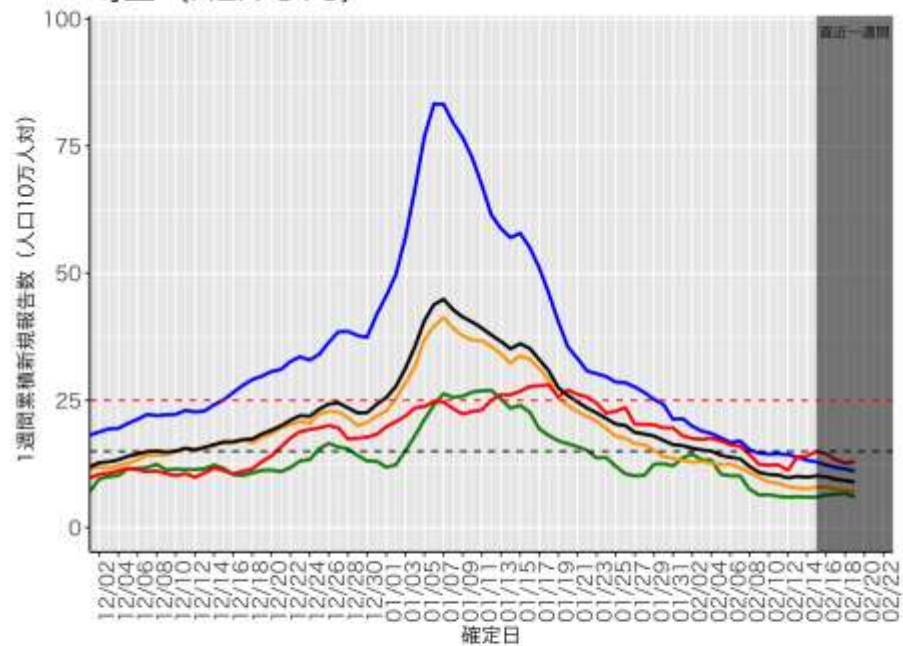
首都圏：全世代で他地域よりも高いレベルで下がりどまりの傾向にある

中京圏：愛知県では高齢世代の減少速度が鈍化している

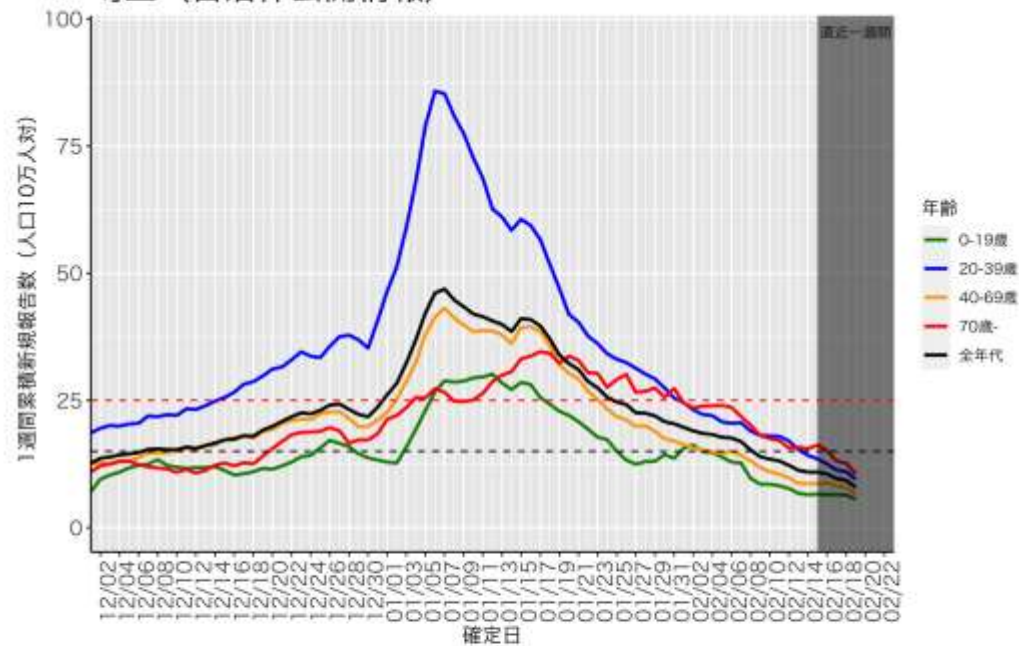
関西圏：高齢世代は横ばい～微増傾向

福岡県：高齢世代がステージ3相当で横ばい～微増傾向

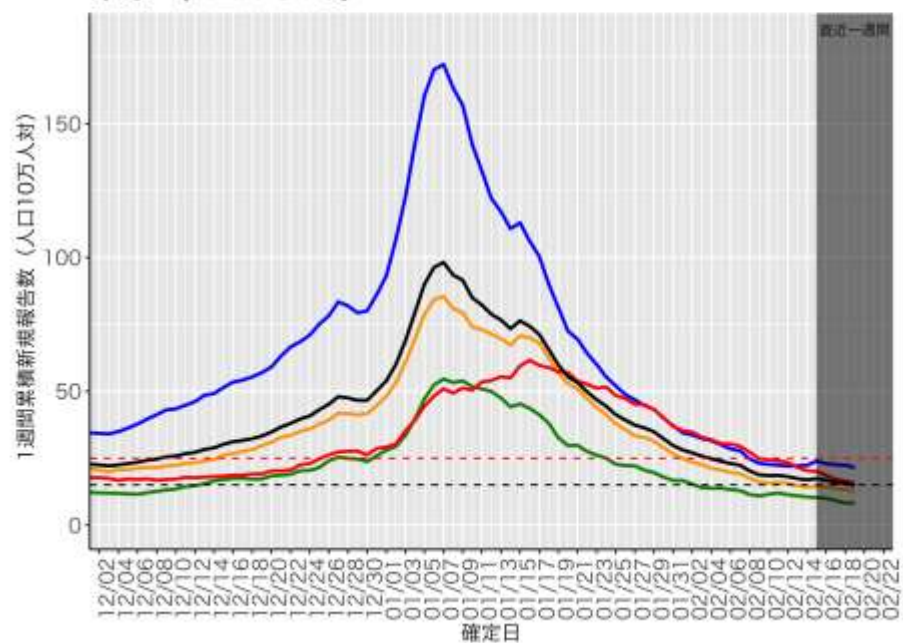
埼玉 (HER-SYS)



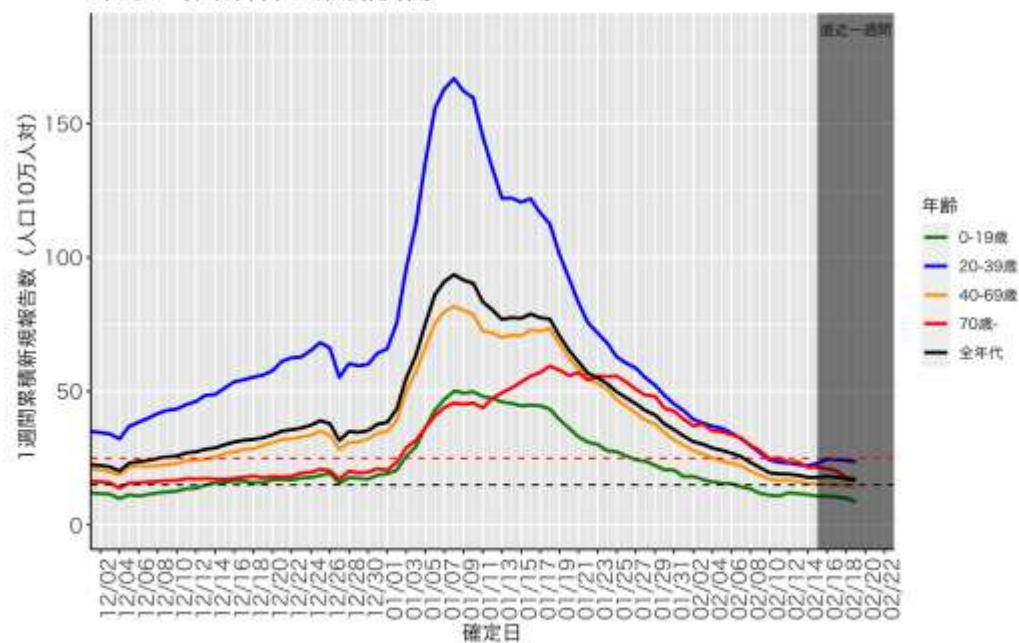
埼玉 (自治体公開情報)



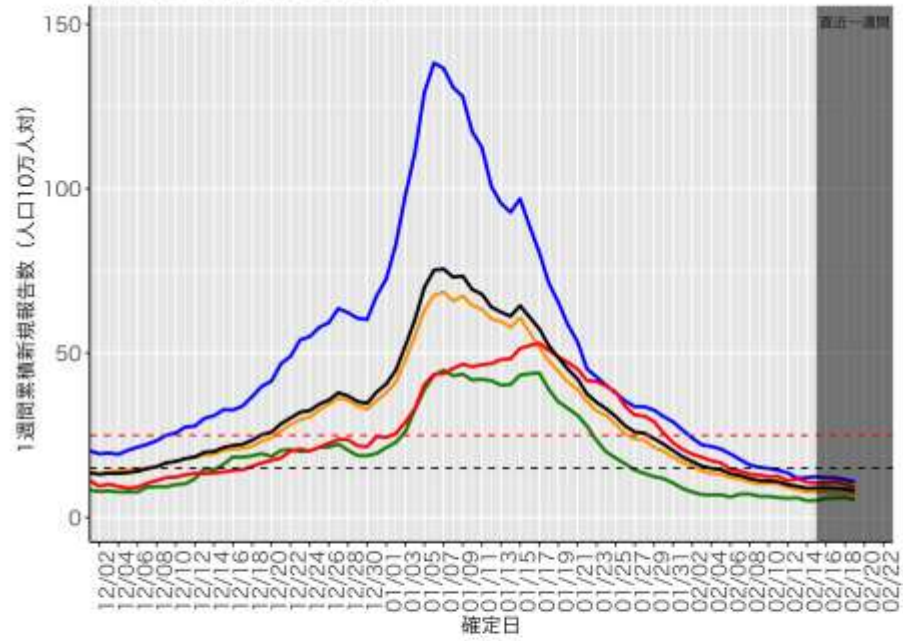
東京 (HER-SYS)



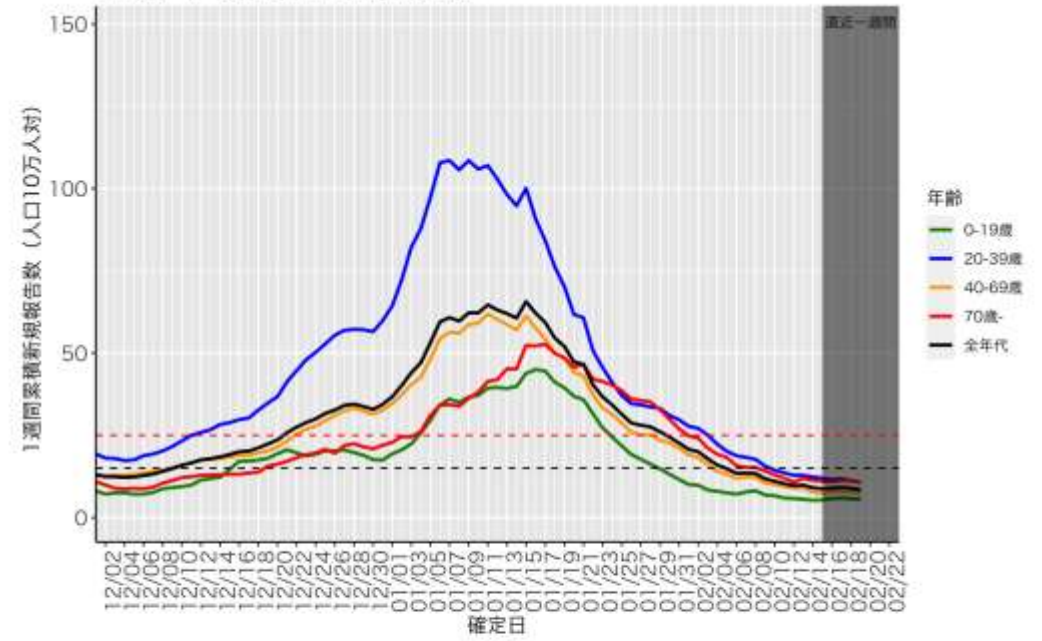
東京 (自治体公開情報)



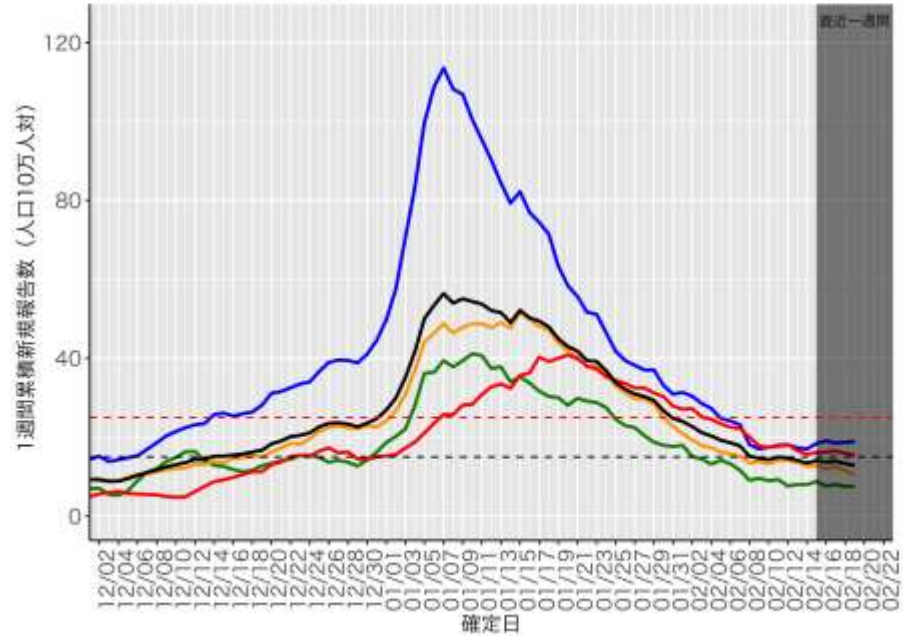
神奈川 (HER-SYS)



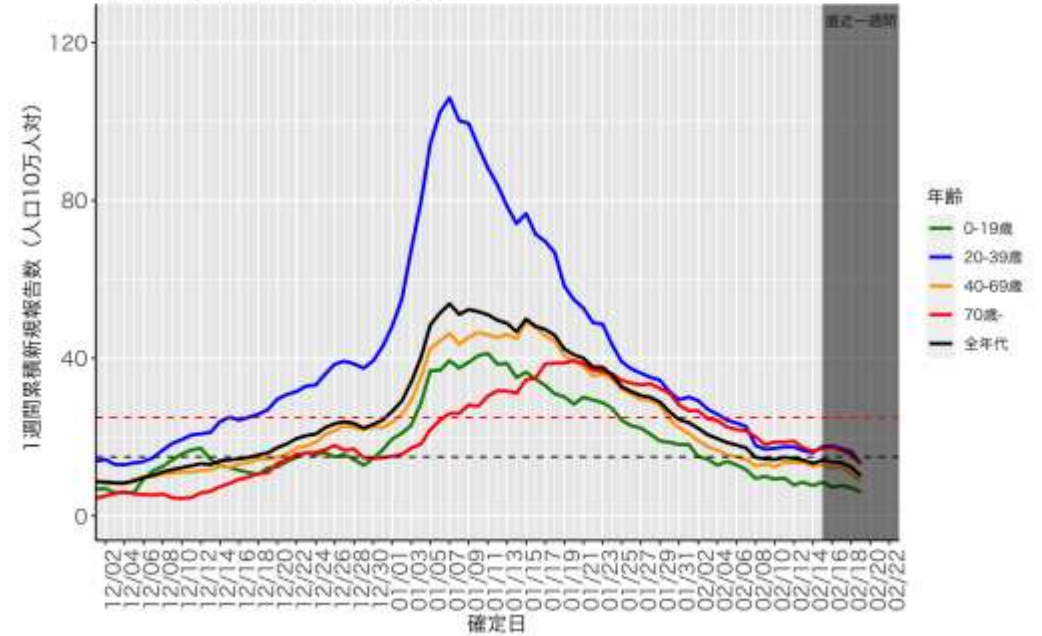
神奈川 (自治体公開情報)



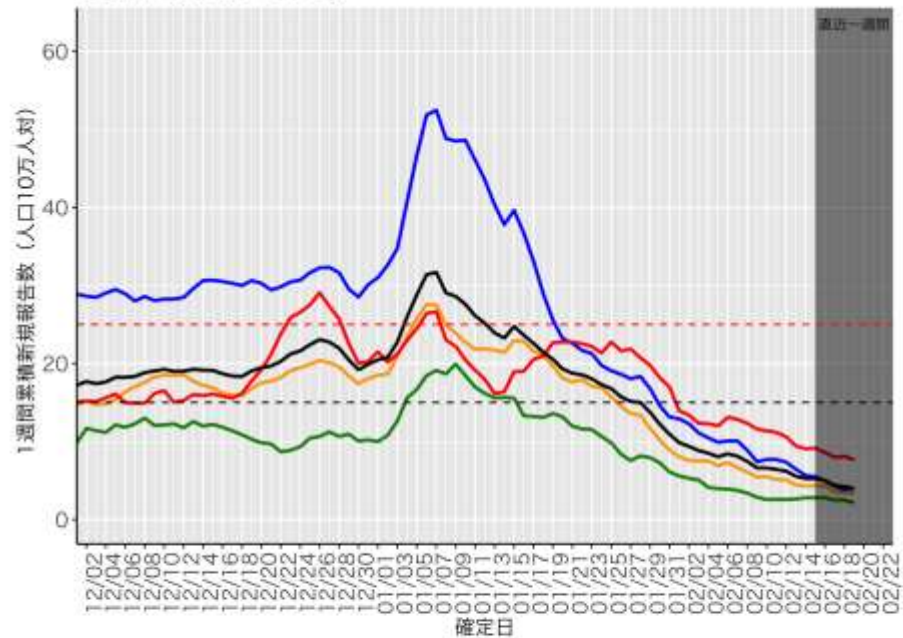
千葉 (HER-SYS)



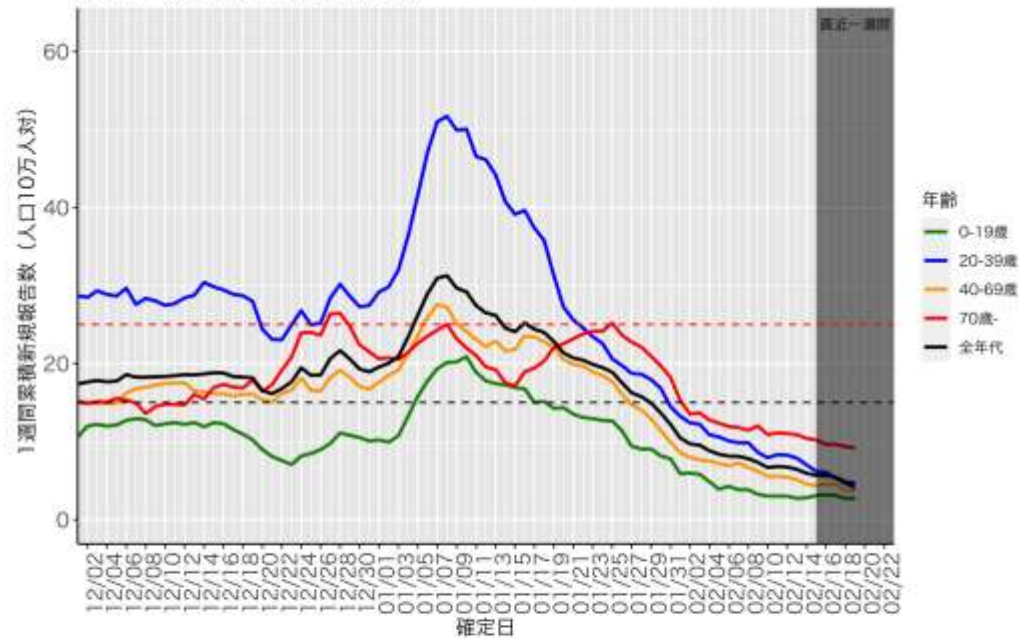
千葉 (自治体公開情報)



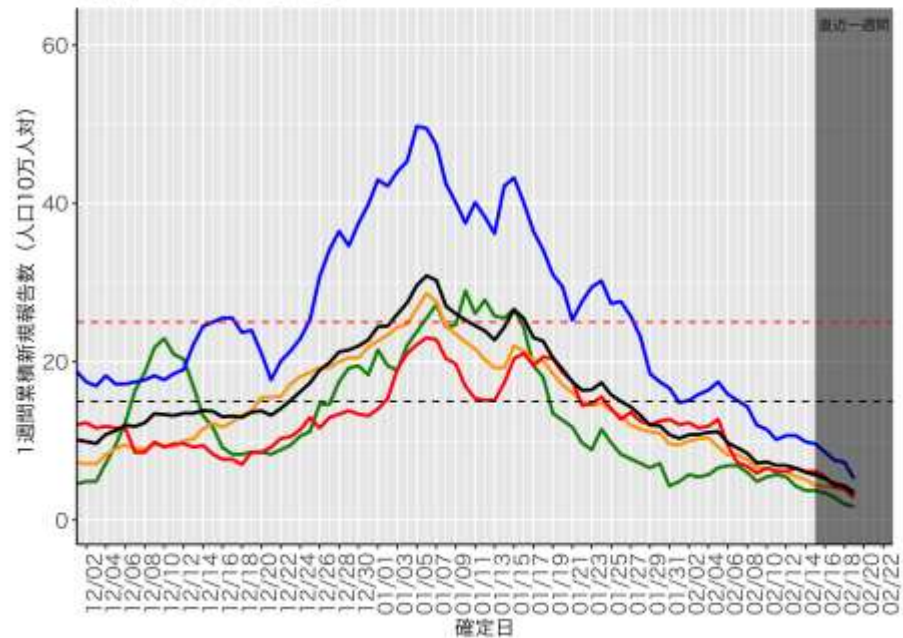
愛知 (HER-SYS)



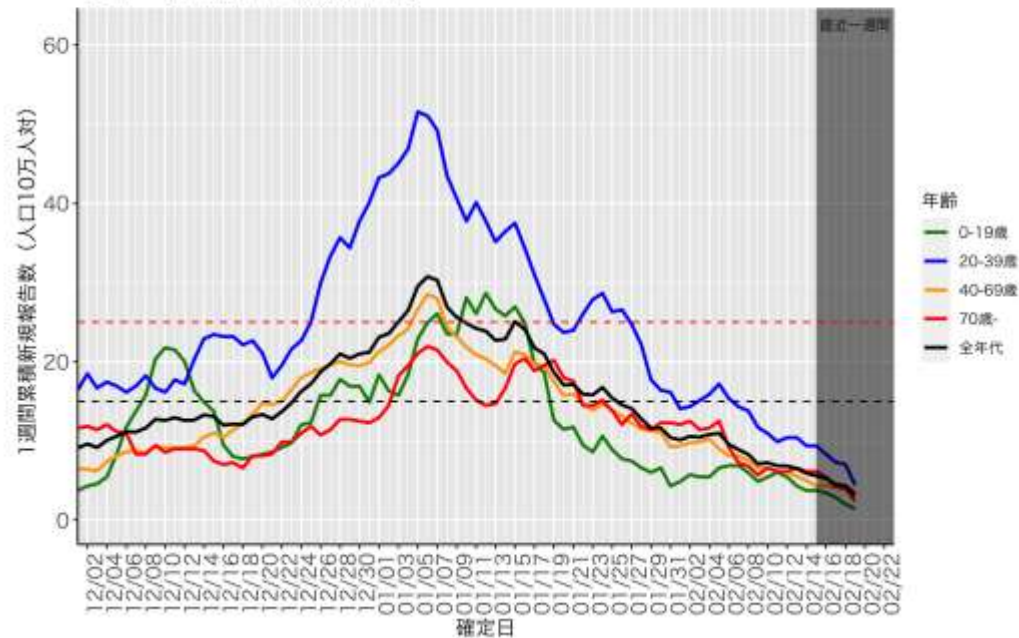
愛知 (自治体公開情報)



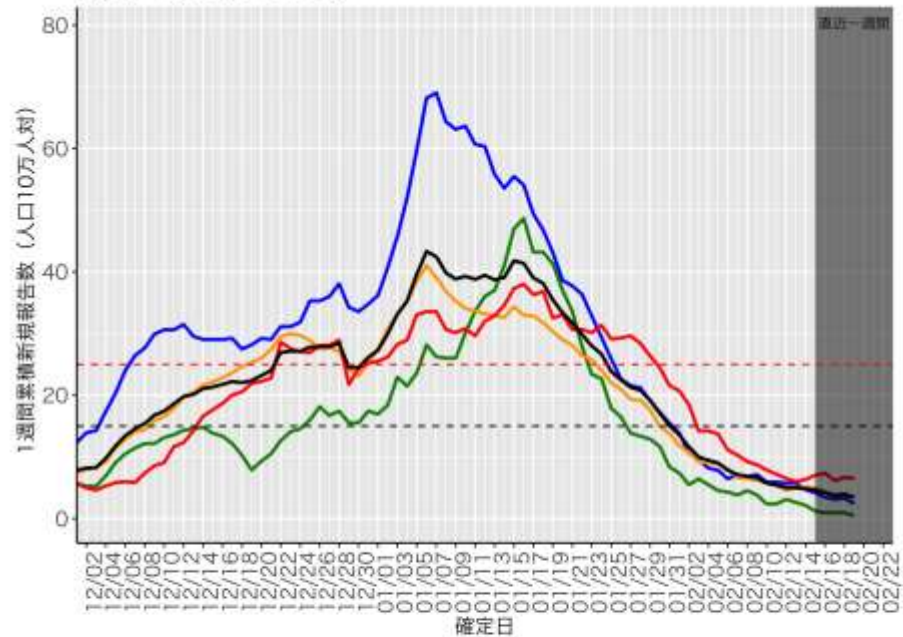
岐阜 (HER-SYS)



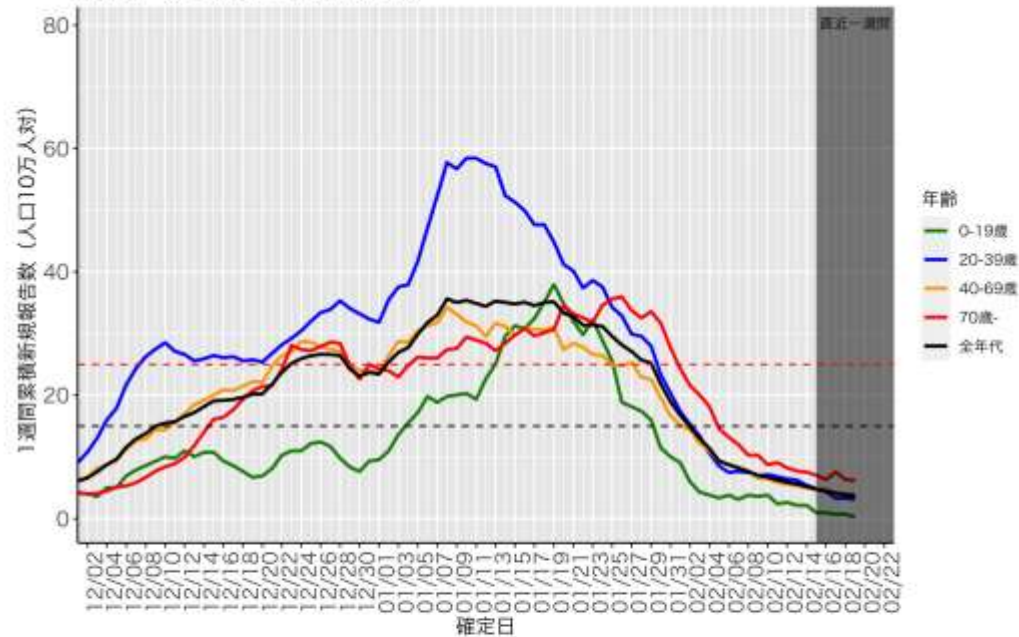
岐阜 (自治体公開情報)



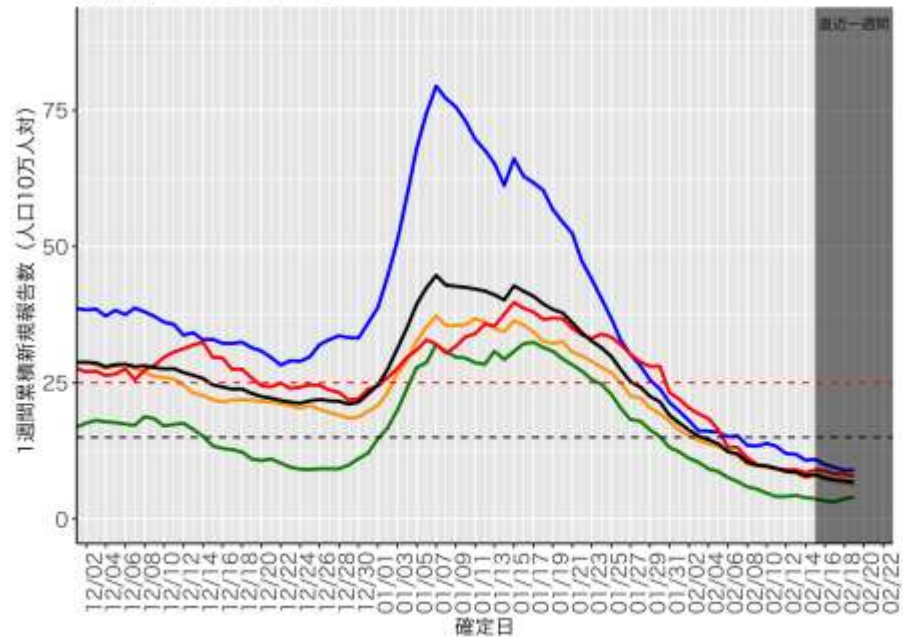
京都 (HER-SYS)



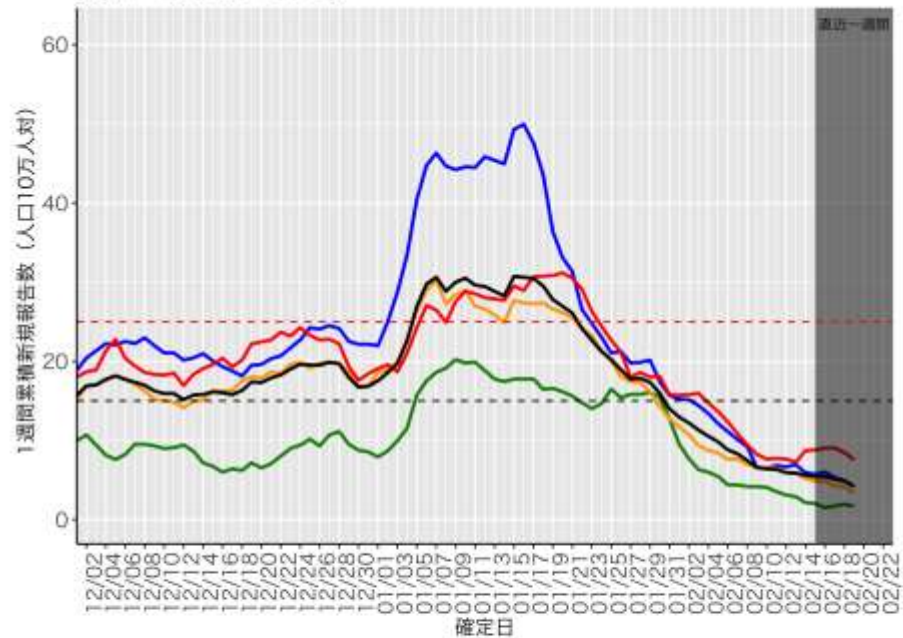
京都 (自治体公開情報)



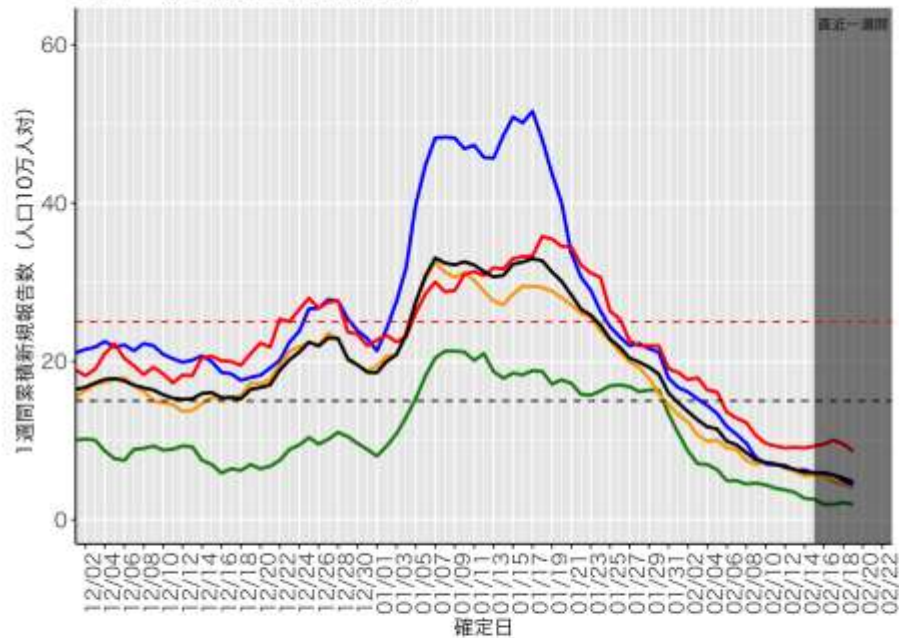
大阪 (HER-SYS)



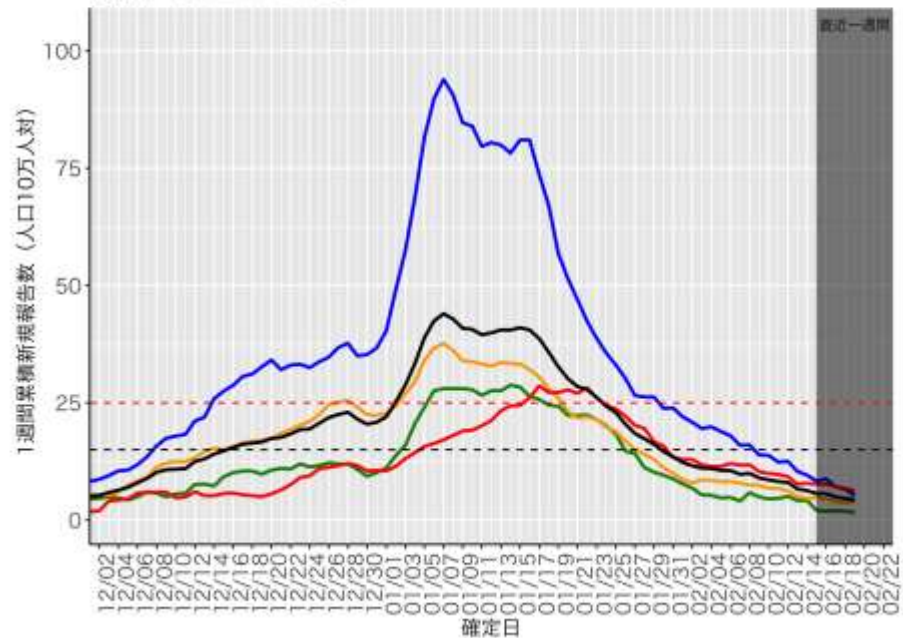
兵庫 (HER-SYS)



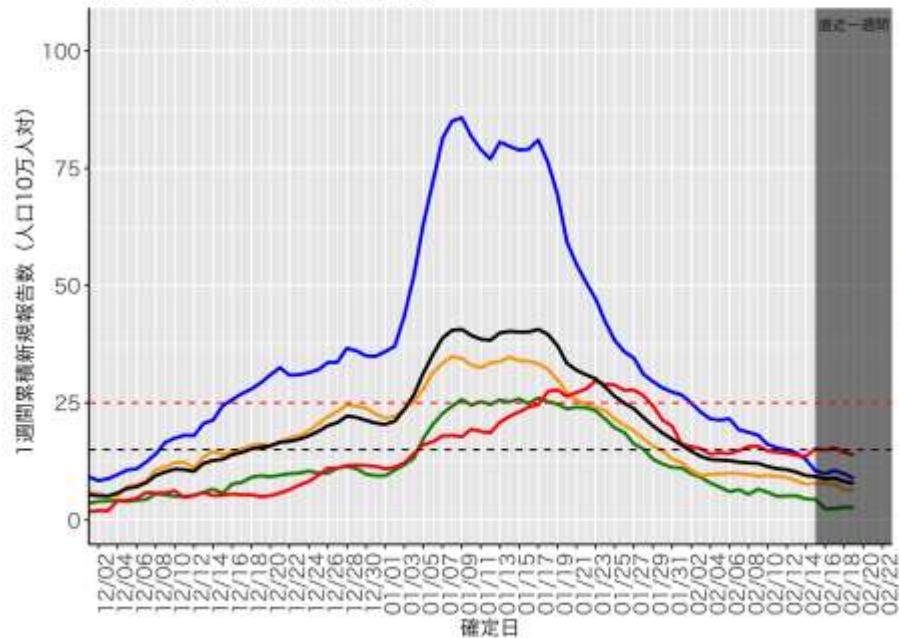
兵庫 (自治体公開情報)



福岡 (HER-SYS)



福岡 (自治体公開情報)



人口10万人あたり7日間累積新規感染者数マップ

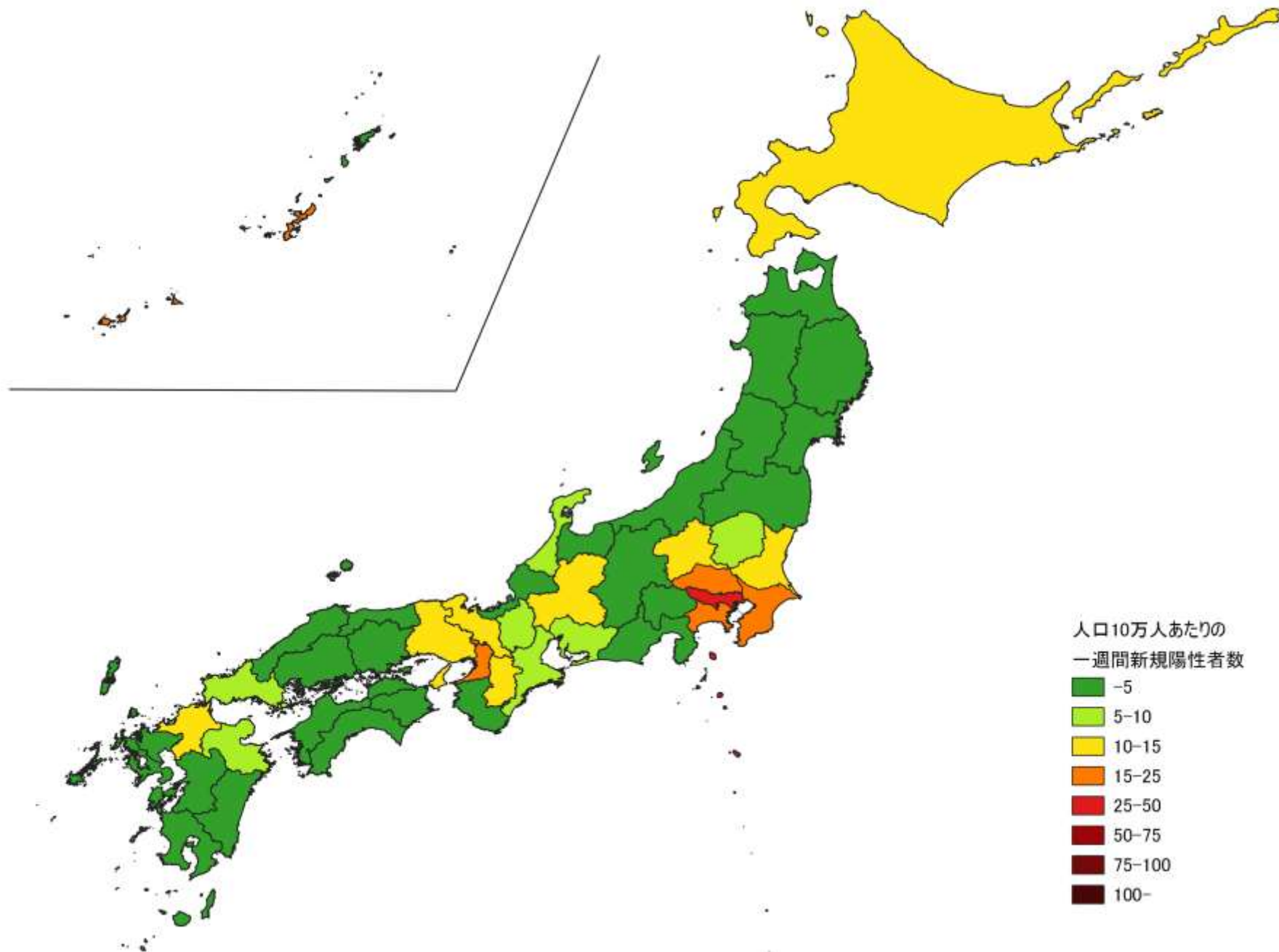
使用データ

- 2021年2月22日時点（2月21日公表分まで）の自治体公開情報を用いて、直近1週間（2/15~2/21）、1週間前（2/8~2/14）、2週間前（2/1~2/7）の人口10万人あたり7日間累積新規感染者数を都道府県別に図示した。
- 同様にHER-SYSデータを用いて保健所管区別の分析を行った（図示せず）。

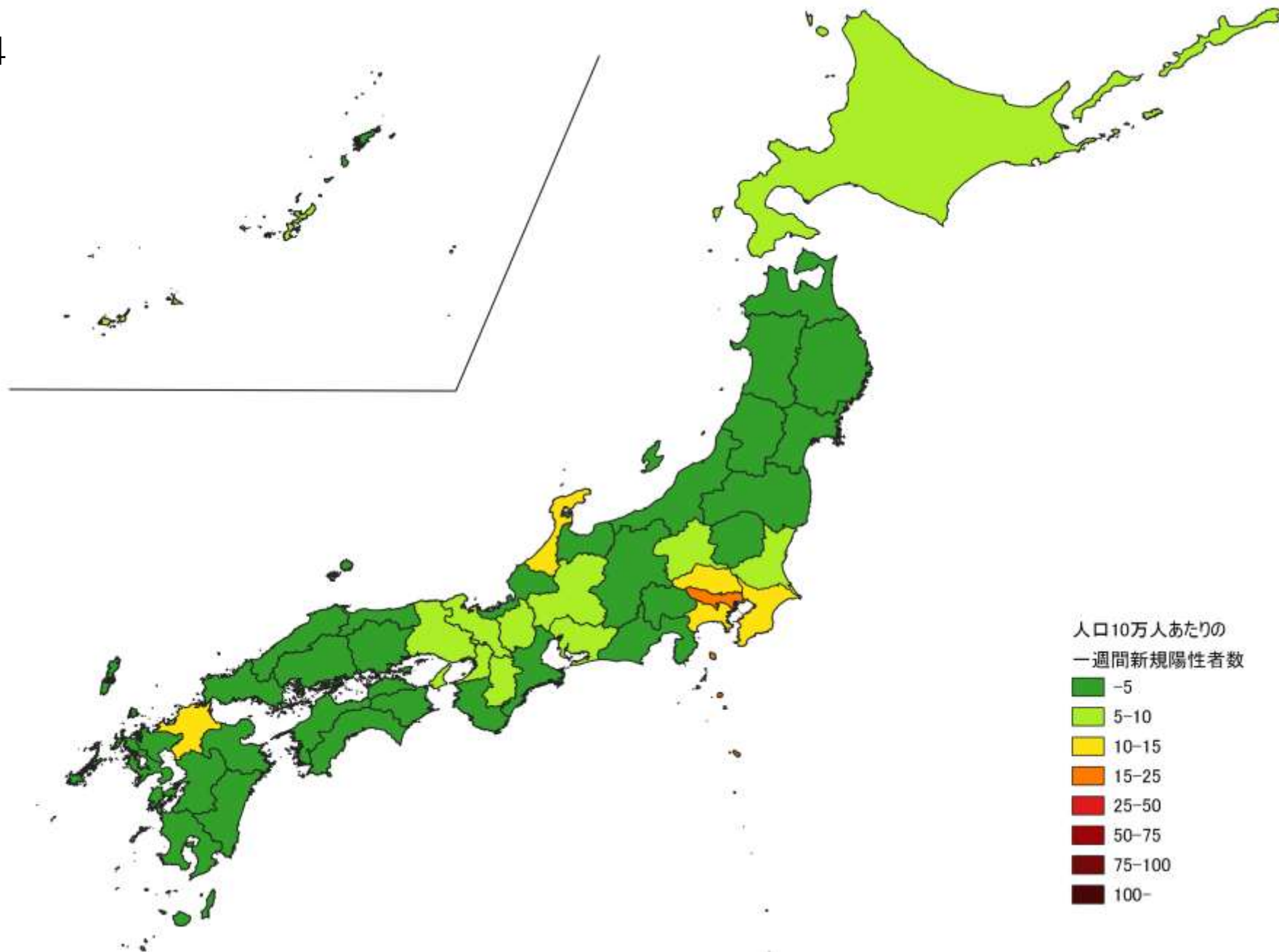
まとめ

- 直近では、都道府県レベルではステージ4相当の地域は認めず、東京都のみがステージ3相当である。
- 保健所管区レベルでは、離島やクラスターが発生している地域（東北地方、中部地方）でステージ4相当の地域がみられる。また北海道、東北地方、関西地方、中部地方、九州地方にステージ3相当の地域が散見される。

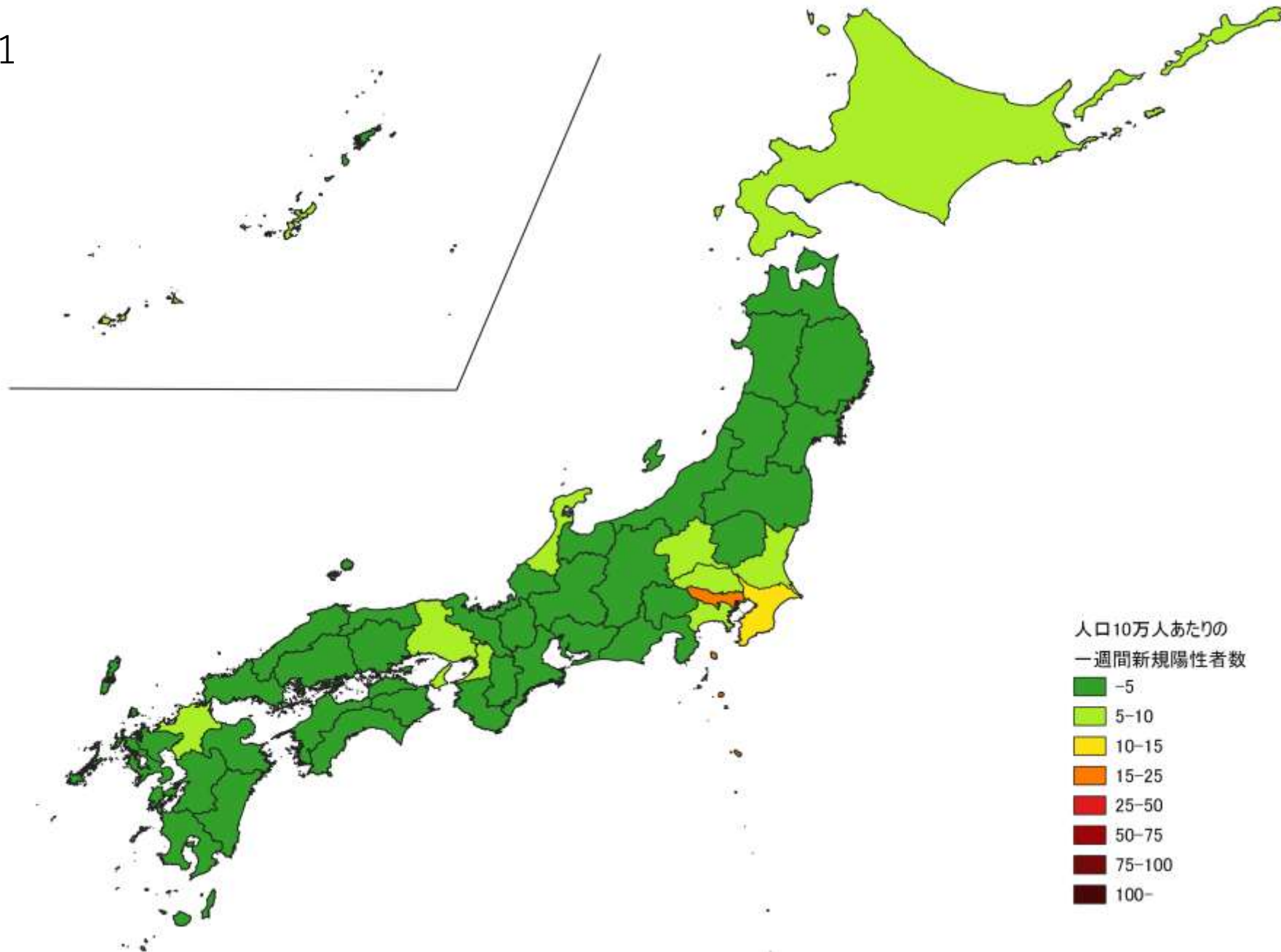
都道府県単位 2/1~2/7 (自治体公開情報)



都道府県単位 2/8~2/14 (自治体公開情報)

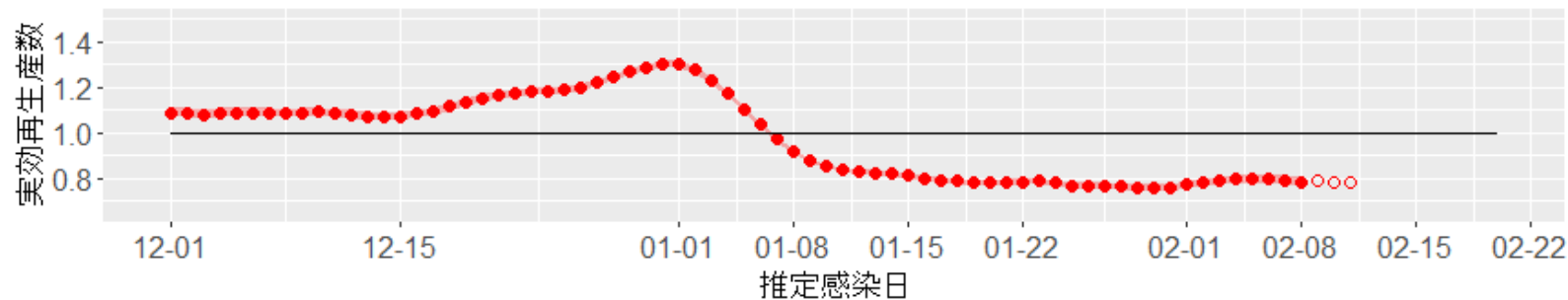


都道府県単位 2/15~2/21 (自治体公開情報)

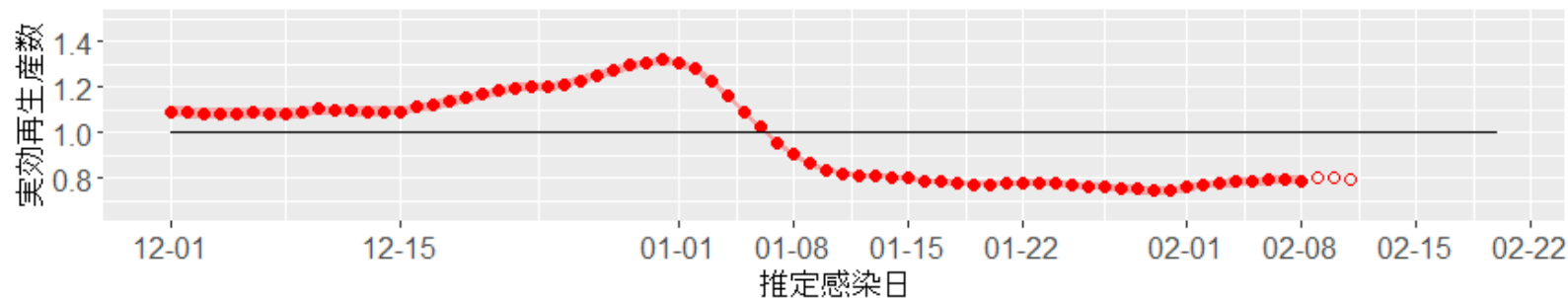


全国の実効再生産数（推定感染日毎）：2月23日作成

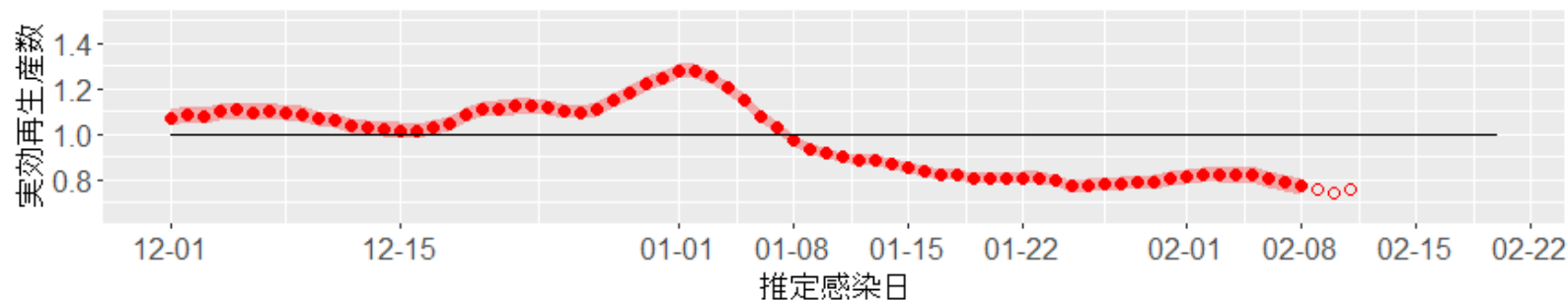
全国
2月8日時点Rt=0.78 (0.76-0.80)



緊急事態宣言対象地域：10都府県
2月8日時点Rt=0.79 (0.77-0.81)



緊急事態宣言非対象地域：37道県
2月8日時点Rt=0.77 (0.73-0.81)

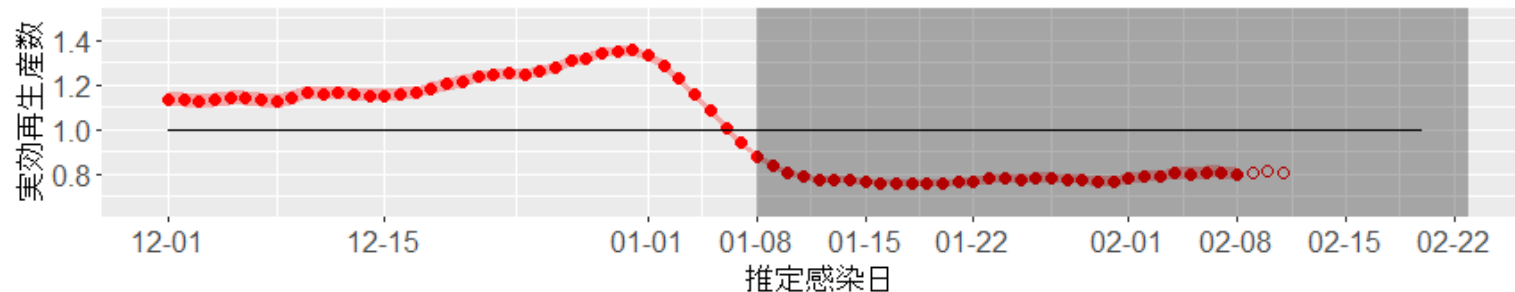


実効再生産数は推定感染日（発症日あるいは発症日不明例については推定発症日から潜伏期間をさかのぼることで推定）ごとにCori et al. AJE 2013の方法でwindow time=7で推定した。16日前までの推定値を赤丸、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を白丸で表し、それよりも直近の値は表示していない。括弧内の値と図中の赤帯は95%信頼区間を表す。
なお、発症日の入力率、公表率は自治体によりばらつきが大きく、また事後的に修正される可能性があるため、値は暫定値である。

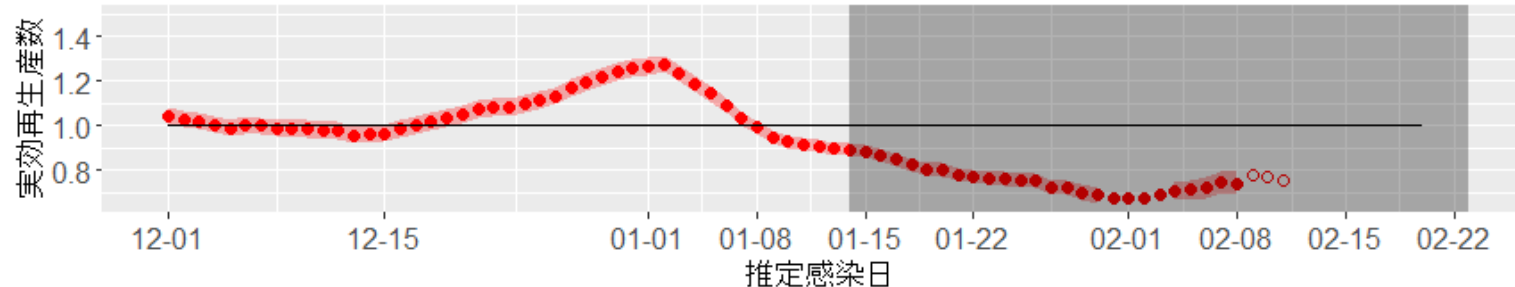
緊急事態宣言対象地域の実効再生産数（推定感染日毎）：2月23日作成

緊急事態宣言

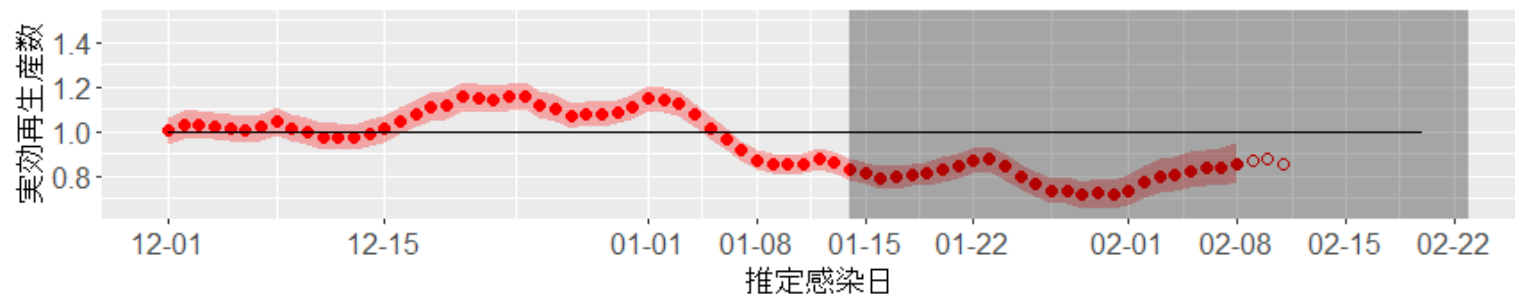
首都圏：東京、神奈川、千葉、埼玉
2月8日時点Rt=0.80 (0.77-0.83)



関西圏：大阪、京都、兵庫
2月8日時点Rt=0.74 (0.69-0.79)

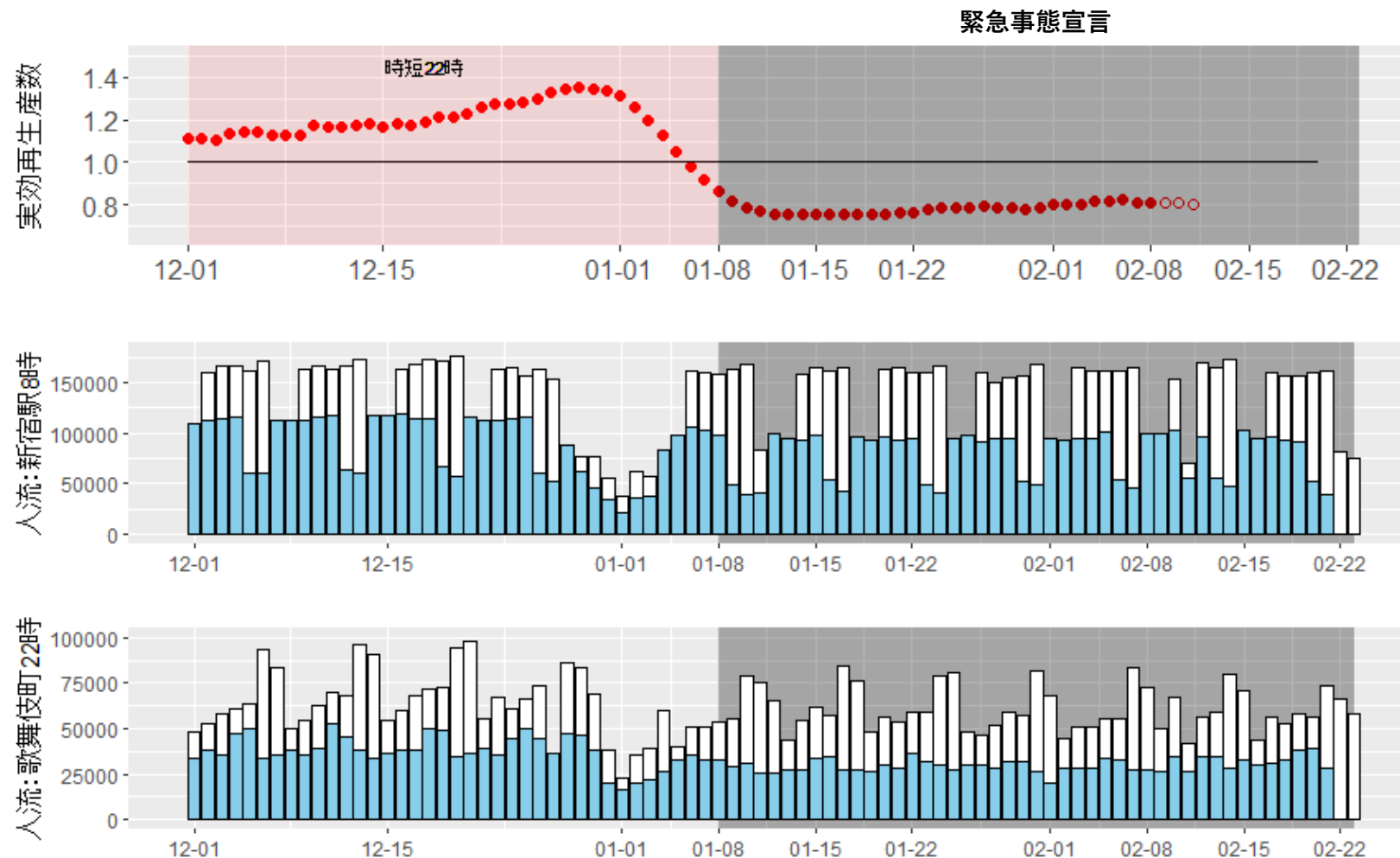


中京圏：愛知、岐阜
2月8日時点Rt=0.86 (0.77-0.95)



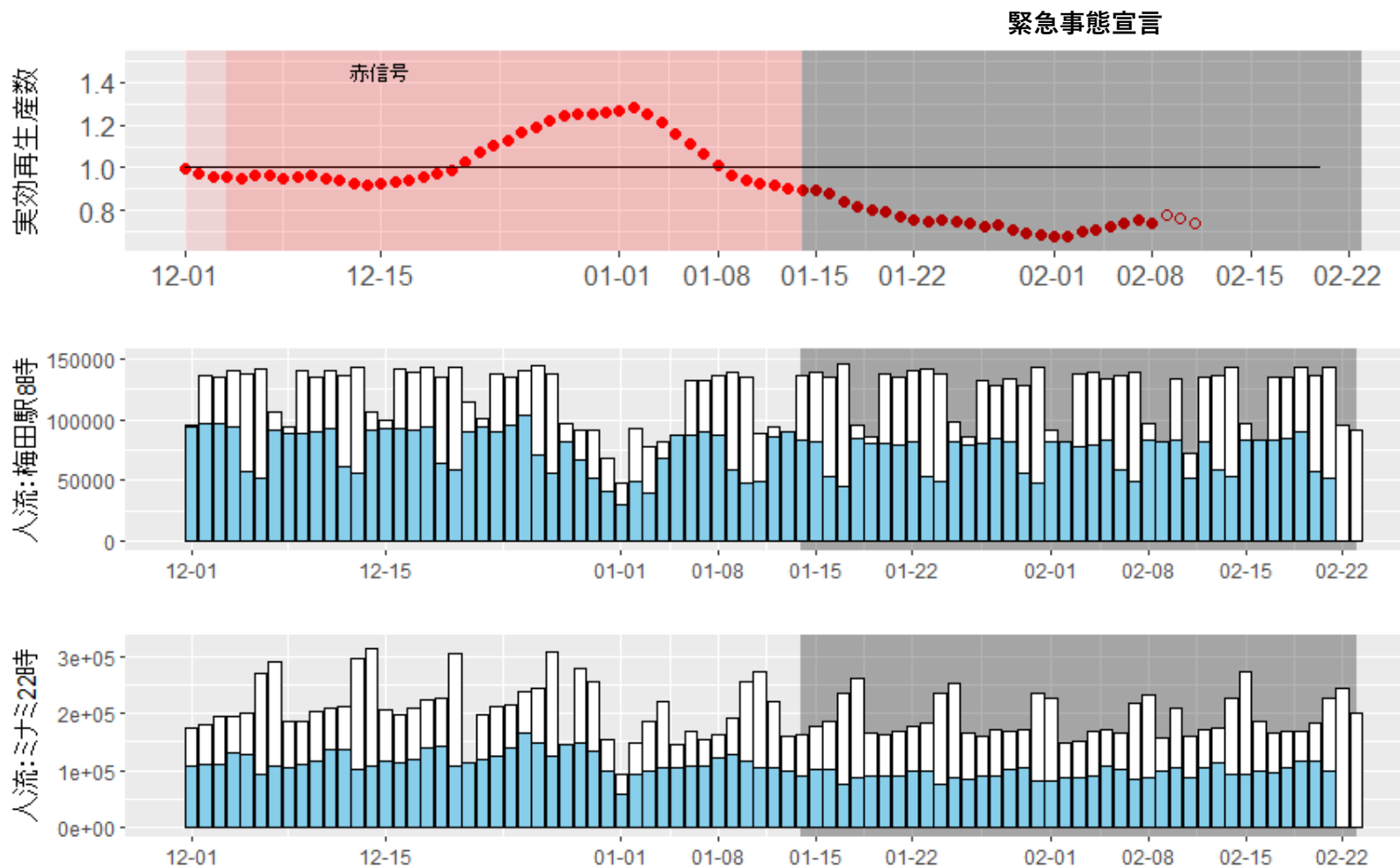
実効再生産数は推定感染日（発症日あるいは発症日不明例については推定発症日から潜伏期間をさかのぼることで推定）ごとにCori et al. AJE 2013の方法でwindow time=7で推定した。16日前までの推定値を赤丸、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を白丸で表し、それよりも直近の値は表示していない。括弧内の値と図中の赤帯は95%信頼区間を表す。
なお、発症日の入力率、公表率は自治体によりばらつきが大きく、また事後的に修正される可能性があるため、値は暫定値である。

東京都の実効再生産数（推定感染日毎）と人流：2月23日作成



実効再生産数は推定感染日（発症日あるいは発症日不明例については推定発症日から潜伏期間をさかのぼることで推定）ごとにCori et al. AJE 2013の方法でwindow time=7で推定した。16日前までの推定値を赤丸、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を白丸で表し、それよりも直近の値は表示していない。人流データは株式会社Agoopのものを用いた。

大阪府の実効再生産数（推定感染日毎）と人流：2月23日作成



白 = 2019-20年
赤 = 2020-21年

実効再生産数は推定感染日（発症日あるいは発症日不明例については推定発症日から潜伏期間をさかのぼることで推定）ごとにCori et al. AJE 2013の方法でwindow time=7で推定した。16日前までの推定値を赤丸、報告の遅れのために過小推定となっている可能性が高い13日から15日前までの推定値を白丸で表し、それよりも直近の値は表示していない。人流データは株式会社Agoopのものを用いた。

流動人口の推移

データ

- 2月22日時点のAgoop流動人口データ（11/1~2/18）

対象地域

- 緊急事態宣言が発令された東京、千葉、神奈川、埼玉、名古屋、岐阜、大阪、兵庫、京都、福岡

データ表示方法

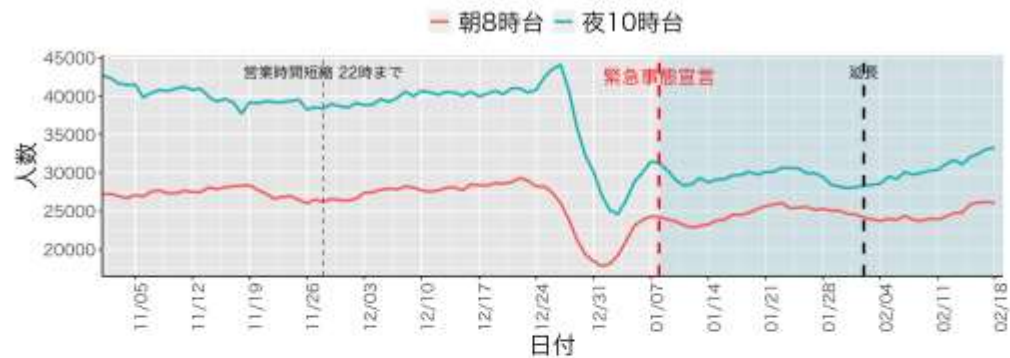
- 駅または繁華街における朝8時と夜10時の時間別流動人口の移動平均（±3日）
- 1月7日（関東地方で緊急事態宣言が発令された前日）を基準日として、2月18日時点の増減率と、緊急事態宣言以降の最大減少率を算出

まとめ

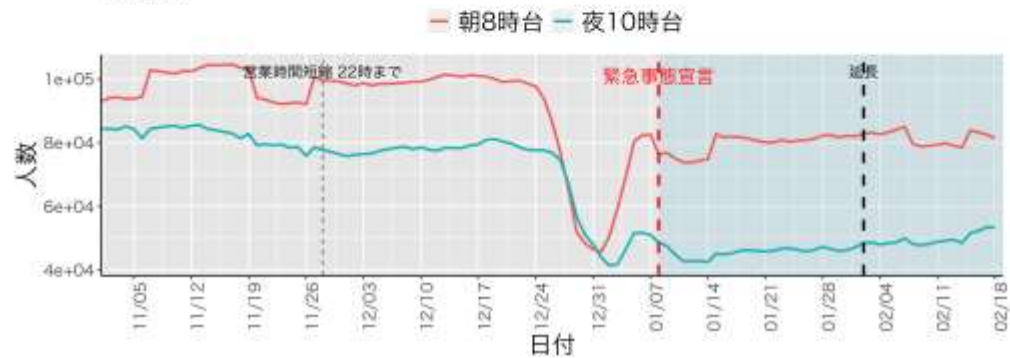
- 朝8時台の人流は全国的に微増しており、緊急事態宣言前（1/7）と比べて同程度、もしくはやや高い地域が多い。
- 夜間の人流はまだ低く抑えられている地域（兵庫、福岡、京都）が多いが、関東地方、特に東京、神奈川では増加傾向である。

東京

歌舞伎町



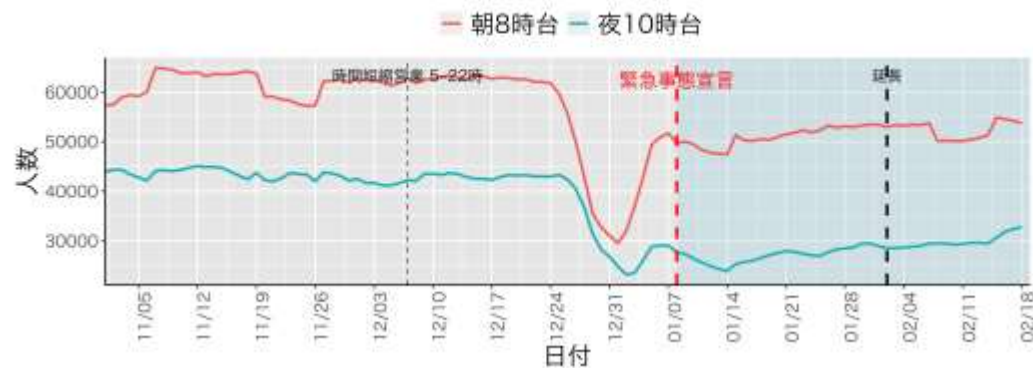
新宿駅



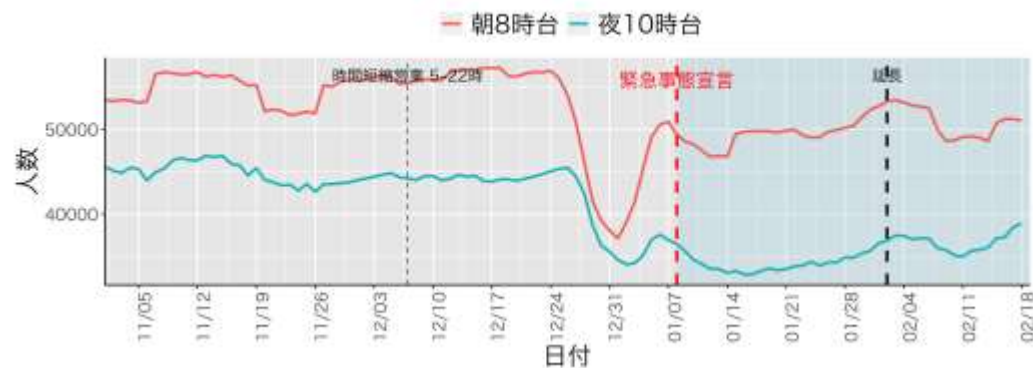
場所	時間帯	2月18日時点	最大減少幅
歌舞伎町	朝8時台	7.24%	-6.1%
	夜10時台	5.59%	-11%
新宿駅	朝8時台	-8.2%	-10.6%
	夜10時台	3.1%	-16.7%

神奈川

横浜駅



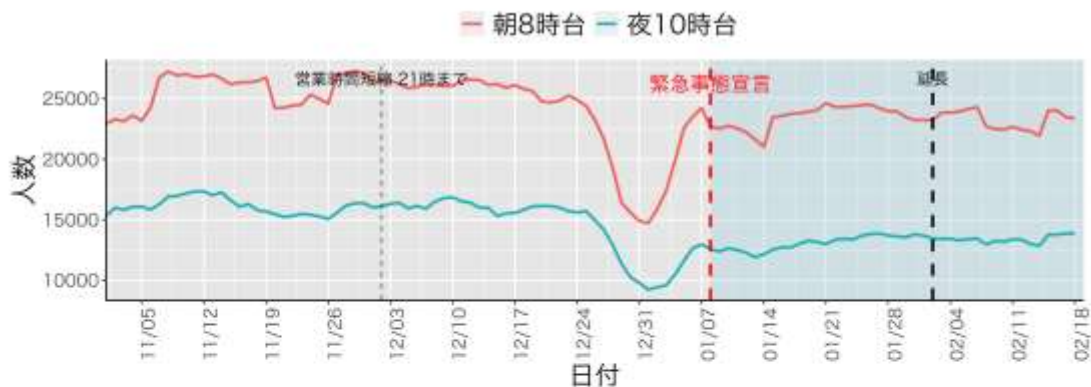
川崎駅



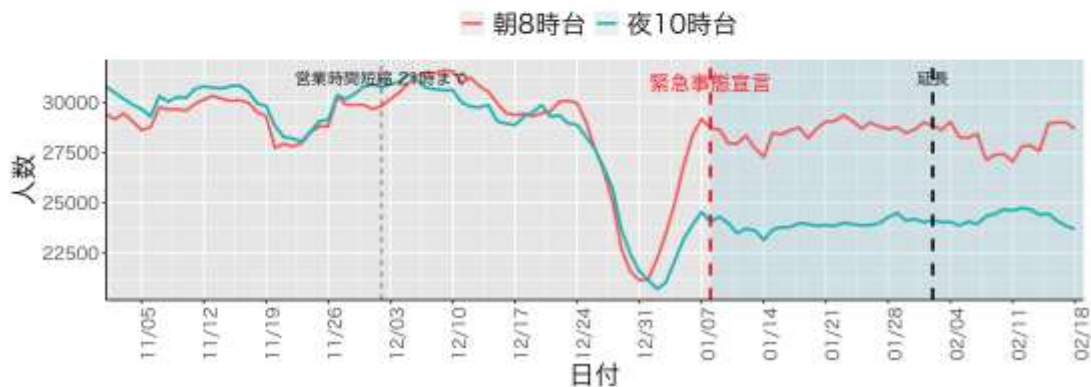
場所	時間帯	2月18日時点	最大減少幅
横浜駅	朝8時台	3.93%	-8.3%
	夜10時台	12.9%	-17.7%
川崎駅	朝8時台	0.34%	-8.2%
	夜10時台	5.3%	-11%

千葉

千葉駅



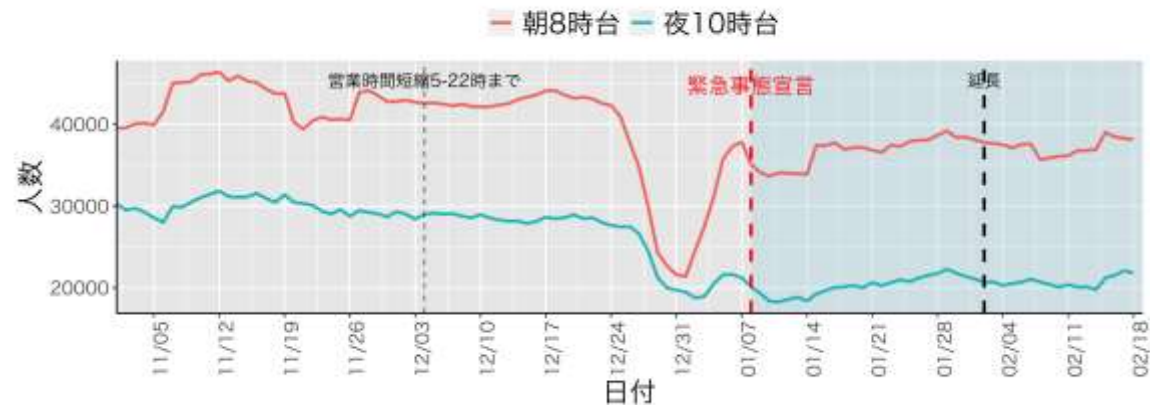
船橋駅



場所	時間帯	2月18日時点	最大減少幅
千葉駅	朝8時台	-3.6%	-13.3%
	夜10時台	7.1%	-8.2%
船橋駅	朝8時台	-1.7%	-8.8%
	夜10時台	-3.4%	-5.6%

埼玉

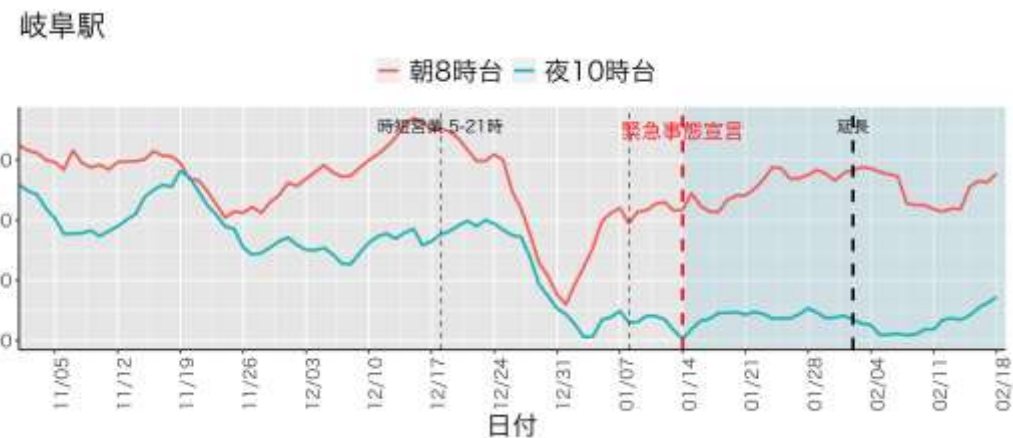
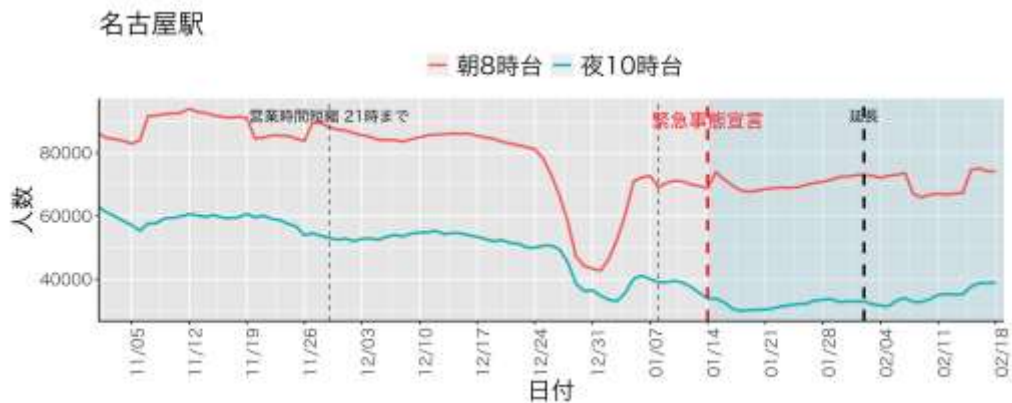
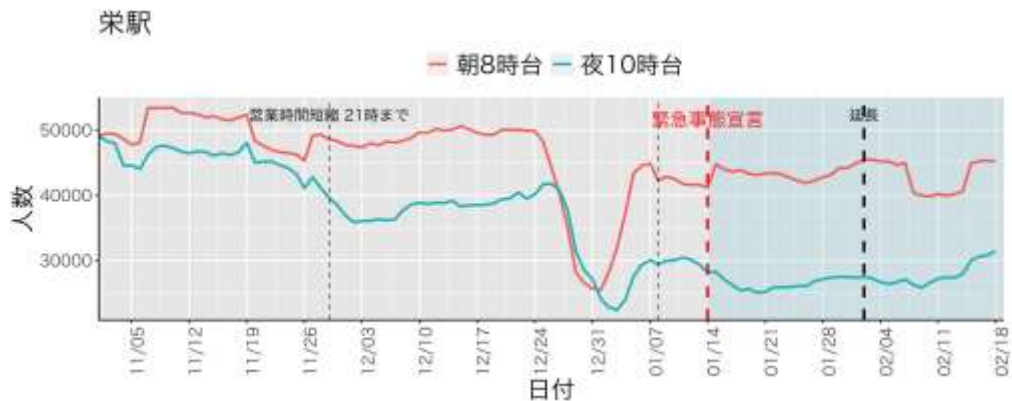
大宮駅



場所	時間帯	2月18日時点	最大減少幅
大宮駅	朝8時台	0.9%	-11%
	夜10時台	2.7%	-13.9%

愛知

岐阜



場所	時間帯	2月18日時点	最大減少幅
岐阜駅	朝8時台	9.3%	-4.1%
	夜10時台	5.2%	-10.3%

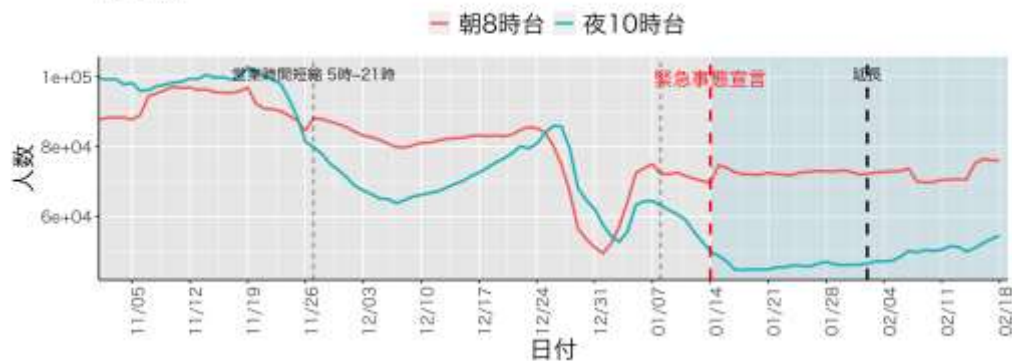
場所	時間帯	2月18日時点	最大減少幅
栄駅	朝8時台	0.76%	-13.1%
	夜10時台	4.77%	-16.5%
名古屋駅	朝8時台	1.87%	-9.4%
	夜10時台	-2.8%	-25.3%

大阪

大阪市 ミナミ



梅田駅



場所	時間帯	2月18日時点	最大減少幅
大阪市ミナミ	朝8時台	0.58%	-7.6%
	夜10時台	-7.5%	-20.1%
梅田駅	朝8時台	1.3%	-8.8%
	夜10時台	-15.5%	-30.6%

京都

祇園



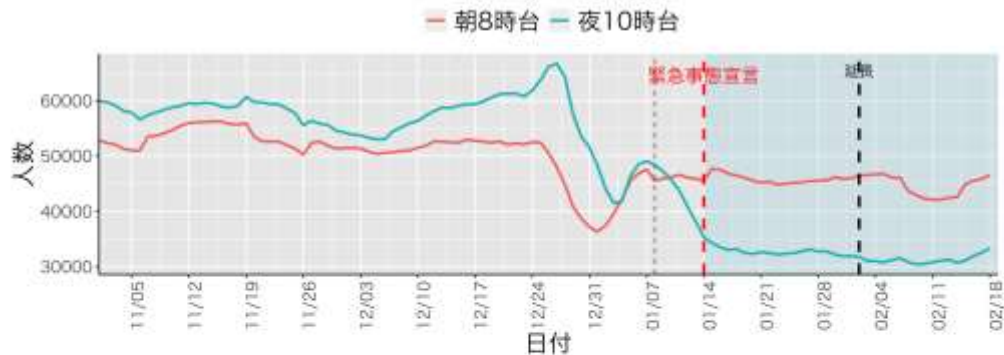
京都駅



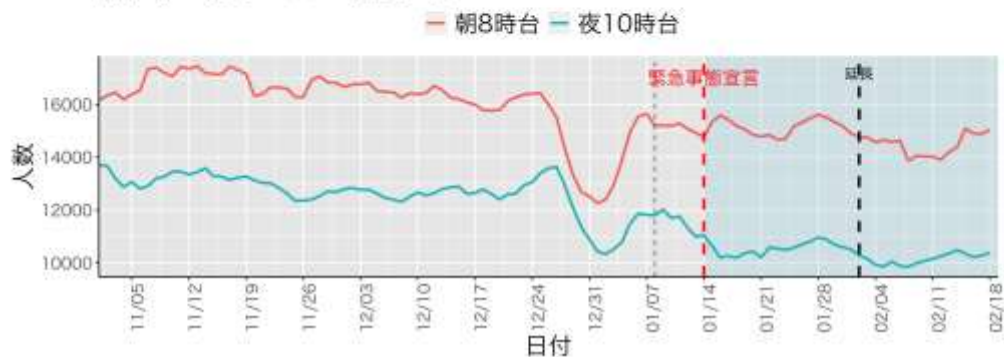
場所	時間帯	2月18日時点	最大減少幅
祇園	朝8時台	-2.9%	-14.6%
	夜10時台	-17.5%	-23.2%
京都駅	朝8時台	12.2%	-4.3%
	夜10時台	-6.3%	-25.7%

兵庫

三ノ宮駅



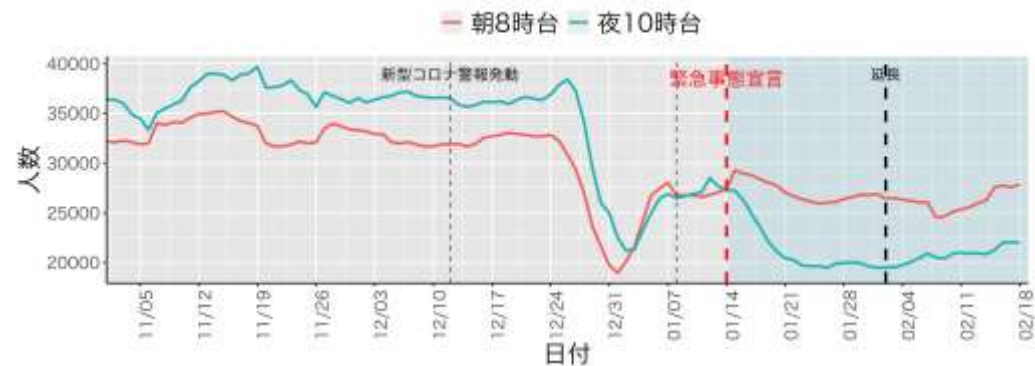
神戸市 元町エリア (南京町)



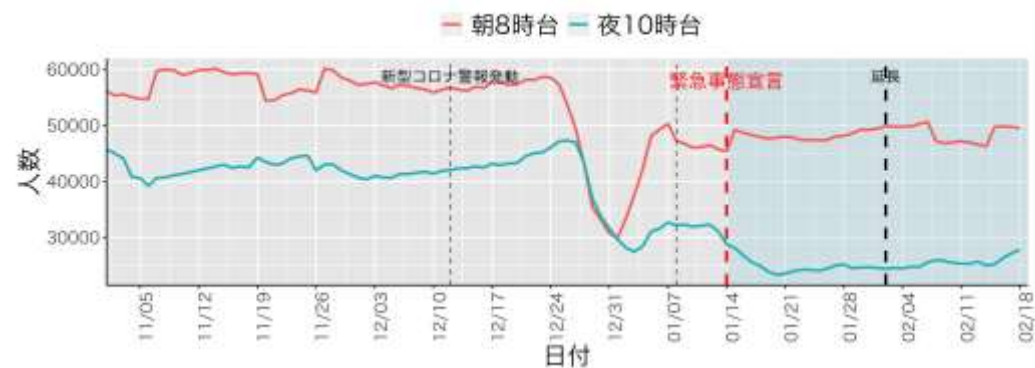
場所	時間帯	2月18日時点	最大減少幅
三ノ宮駅	朝8時台	-2.2%	-12.2%
	夜10時台	-32.1%	-38%
神戸市 元町エリア (南京町)	朝8時台	-3.8%	-11.5%
	夜10時台	-12.1%	-16.7%

福岡

中洲川端駅



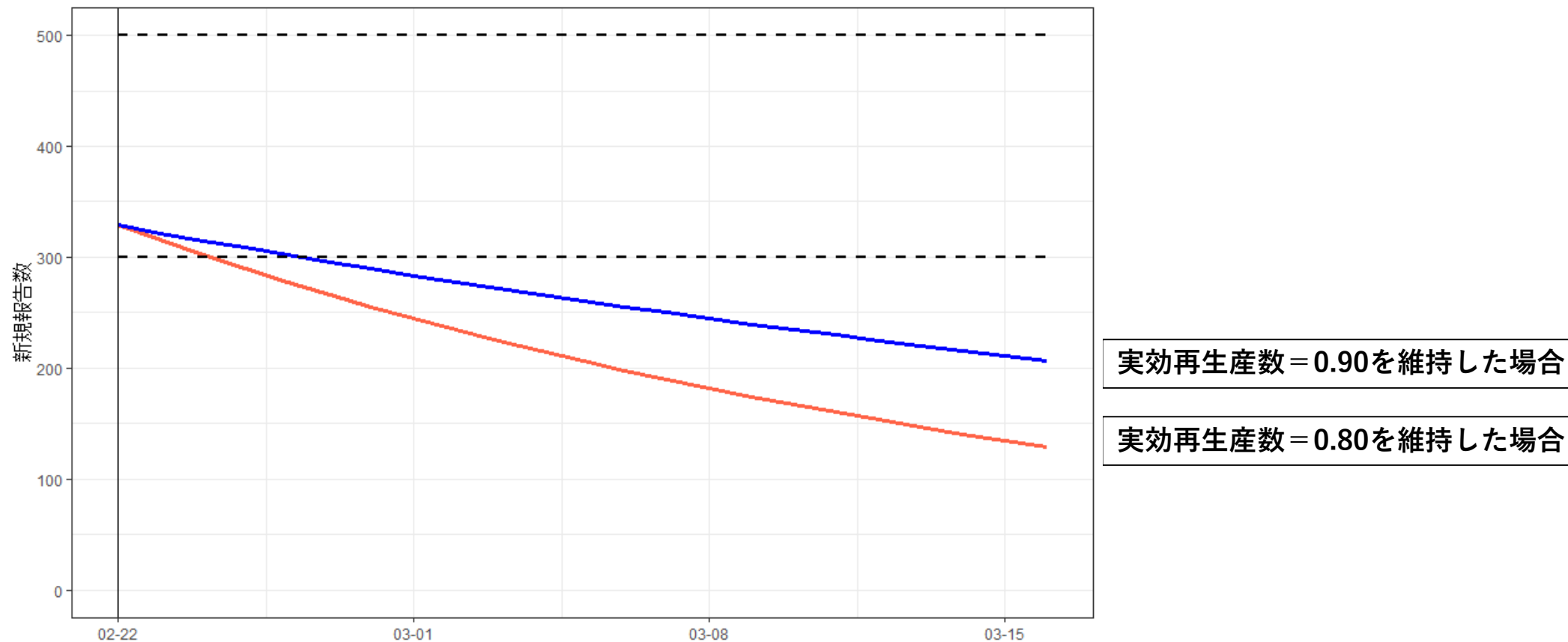
天神駅



場所	時間帯	2月18日時点	最大減少幅
中洲川端駅	朝8時台	-0.7%	-12.5%
	夜10時台	-18.2%	-27.6%
天神駅	朝8時台	-1.5%	-9.6%
	夜10時台	-14.9%	-28.7%

シミュレーション：東京都を想定（2月23日作成）

2月22日時点での一日の新規報告数を330と仮定



実効再生産数 = 0.90を維持した場合

実効再生産数 = 0.80を維持した場合

直近（6週：2/8~2/14）のインフルエンザ動向

サーベイランス指標（情報源）	レベル	トレンド	コメント
定点当たりのインフルエンザ受診患者報告数（NESID*、約5000定点）	低 (0.01 [患者報告数56例])	減少	51週70例、52週69例、53週69例、1週73例、2週65例、3週64例、4週64例、5週98例、6週56例
全国の医療機関を1週間に受診した推計患者数（NESID*、推計）	低	横ばい	約0.1万人（95%信頼区間：0~0.1万人）
基幹定点からのインフルエンザ入院患者報告数（NESID*、約500定点）	低	微増	51週2例、52週6例、53週9例、1週7例、2週8例、3週3例、4週8例、5週4例、6週8例
病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出報告数（NESID*、約500の病原体定点）	低	横ばい	2/21現在、36週以降、43~44週に2例（A(H1)pdm09） （データは毎日自動更新）
インフルエンザ様疾患発生報告数（全国の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校におけるインフルエンザ様症状の患者による学校欠席者数）	低 (休校0、学年閉鎖1、学級閉鎖1)	微増	36週以降、37週に学年閉鎖1、43週に学級閉鎖1、44週に学級閉鎖1、45~5週は0、6週は学年閉鎖1（北海道）、学級閉鎖1（山形県）
国立病院機構におけるインフルエンザ全国感染動向（全国141の国立病院機構各病院による隔週インフルエンザ迅速抗原検査件数、陽性数）	低 (2/1~2/15:検査数2404、陽性数0例、陽性率0%)	微減	0例（1月後半はA型3例。1月前半はA型2例B型1例。12月後半はA型4例。）（検査は、診察医師の判断による）
MLインフルエンザ流行前線情報データベース（主に小児科の有志医師による自主的なインフルエンザ患者報告数〔迅速診断検査〕）	低	横ばい	2/21現在、12月以降、12/2にA型1例、12/18にB型1例、12/25にA型1例、1/4にB型1例、1/9にB型1例、1/18にB型1例、2/3にA型1例 （データは毎日自動更新）

*2021年第1週からレベルマップ開始：https://nesid4g.mhlw.go.jp/Hasseidoko/Levelmap/flu/new_jmap.html